

躯体構造検査

| | | |
|--------|------------|-----|
| 実施日 | 2022-11-28 | |
| 登録物件名 | 南アルプス市小笠原 | 〇様邸 |
| 事業者名 | デザインハウス甲府 | |
| 事業者立合者 | 梅屋 大樹 | |
| 報告者 | 梅屋 大樹 | |
| 総合判定 | 適合 | |

【凡例】「方法」欄 A:目視確認 B:計測確認 C:書類確認（設計図書含む）

「判定」欄 ○:適 ×:不適 ー:該当なし（登録設計図書に記載がない場合を含む） 保留:判定保留

※目視・計測可能な部位で抽出確認し、保険の適否を判定します。

1.躯体工事

| No. | 項目 | 基準値 | 実測値 | 方法 | 判断 |
|-----|---|-------|-------|----|----|
| 1-1 | アンカーボルトの埋設位置は、間隔2m以内とする。 | 2mm | 2mm | B | ○ |
| 1-2 | アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。 | 250mm | 250mm | B | ○ |
| 1-3 | 基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。 | | | B | ○ |
| 1-4 | 基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。 | | | A | ○ |
| 1-5 | 鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。 | | | A | ○ |
| 1-6 | 土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける） | | | A | ○ |
| 1-7 | 地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。 | | | B | ○ |
| 1-8 | 強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。 | 15% | 13% | B | ○ |

| | | | | | |
|------|---|-----|-----|-----|---|
| 1-9 | 床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。 | | | B | ○ |
| 1-10 | 外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。 | | | B | ○ |
| 1-11 | 外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。 | 2mm | 2mm | B | ○ |
| 1-12 | 鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか | | | A | ○ |
| 1-13 | 接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。 | | | A | ○ |
| 1-14 | 壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する。 | | | B | ○ |
| 1-15 | くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。（2枚張りの場合）くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。 | | | B | ○ |
| 1-16 | 壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける | | | B | ○ |
| 1-17 | 壁ボードの空きは2mmを許容とする。 | 2mm | 2mm | B | ○ |
| 1-18 | 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。 | | | B | ○ |
| 1-19 | 内側から見て屋根に外し釘がないか確認する。釘は合板端部より10～15mm離す。 | | | B | ○ |
| 1-20 | 勾配は適切か、水下・水上・けらばの各出寸法を確認する。 | | | A C | ○ |
| 1-21 | GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm内側に | | | B | ○ |
| 1-22 | 建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下（流れ方向）は100mm以上、左右（長手方向）は200mm以上重ね合わせる。（未施工の場合、ブルーシート養生する）下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。（ルーフィング施工前に外し釘を確認） | | | B | ○ |

| | | | | | |
|------|--|--|--|---|---|
| 1-23 | 屋根ルーフィングの立ち上がり250mm以上確保し、上端は気密テープで圧着する。かつ雨押さえ上端より50mm以上とする | | | B | ○ |
| 1-24 | 小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。 | | | A | ○ |

【備考】

特記事項

| |
|--|
| |
|--|

1-2口アンカーボルトのコンクリート埋込み長さは250mm以上とし、アンカーボルトの先端は土台の上端よりナットの外にねじが3山以上出るように固定する。

備考



1-3口基礎天端の高さを水準器を使用し、水平確認する。天端レベルに合わせて調整パッキンを使用する。

備考



1-4口基礎パッキン・気密パッキン同士の隙間がないように敷き詰め、土台とパッキンの芯を一致させる。

備考



1-5口鋼製束施工前に基礎内を掃除機で掃除する。鋼製束の間隔は前後左右1m以内を保ち、接着剤がはみ出るまで圧着する。

備考



1-6口土台の防蝕・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）(1/4)

備考



1-6口土台の防蝕・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）(2/4)

備考



1-6口土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）(3/4)

備考



1-6口土台の防腐・防蟻処理材を用いる。（土台に接する外壁の下端には、水切りを設ける）(4/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(1/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(2/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(3/4)

備考



1-7口地面からの高さが1m以内の外壁の枠組の防腐・防蟻措置を現場で塗布・吹付をする。(4/4)

備考



1-8口強度の低下、乾燥後の収縮による変形、シロアリ被害の増加、カビの発生を防ぐため、施工前に床合板の含水率は15%以下か確認する。

備考



基準値
15
実測値

1-9口床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。(1/2)

備考



1-9口床下張材のくぎ打ちはCN50を周辺部150mm間隔以内、中間部200mm以内で平打ちする。床下張材の厚さが15mm以上の場合は、CN65が望ましい。(2/2)

備考



1-10口外壁下張りの釘のピッチはメーカー仕様の壁倍率通りに施工する。

備考



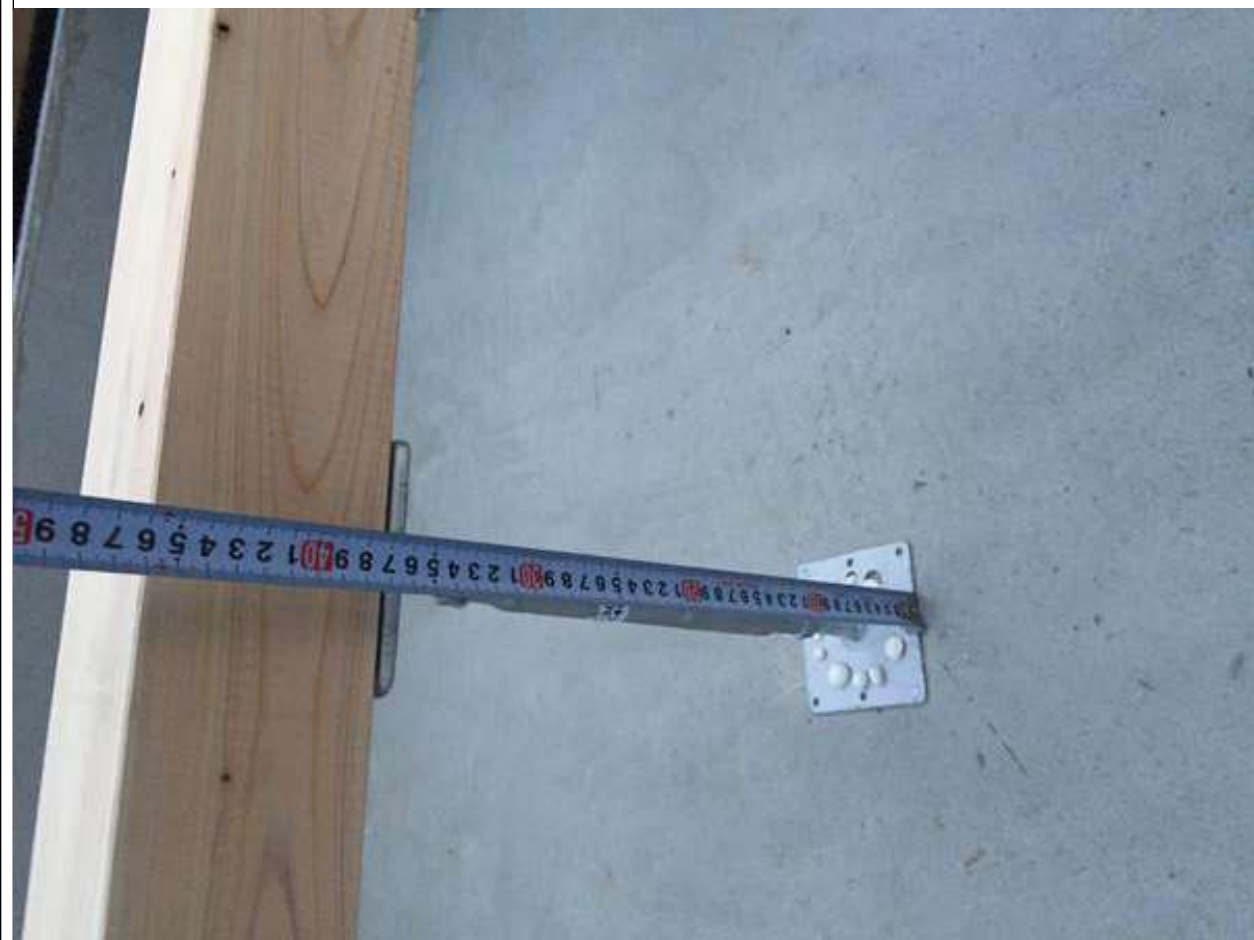
1-11 外壁下張りの釘のめり込み具合2mm以内か確認する。 ※デプスゲージにて沈み込みの確認。

備考



1-12 鉄製束の下部は接着剤がはみ出るまで圧着されているか

備考



1-13口接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。(1/2)

備考



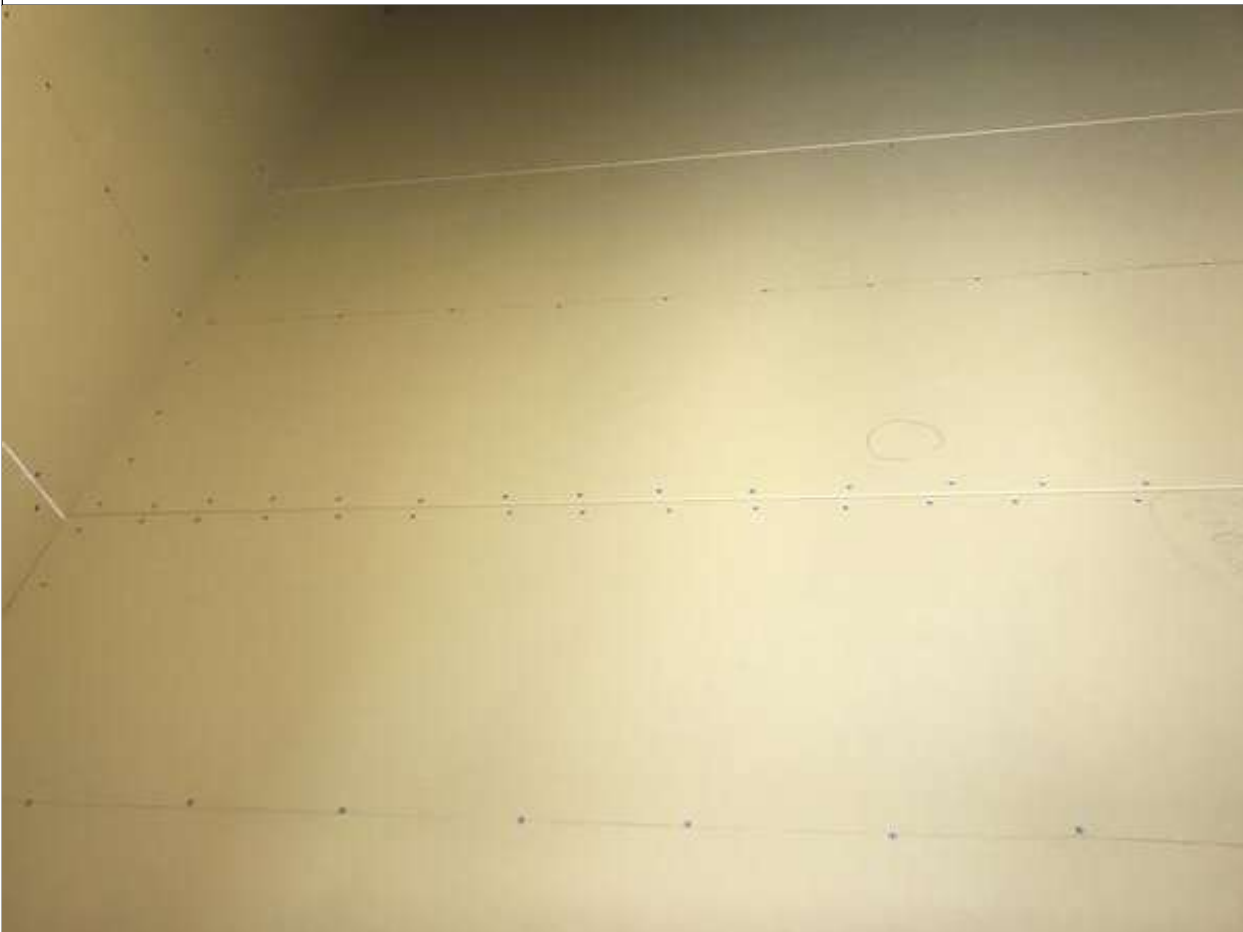
1-13口接合金物の種類・施工位置が図面通りか確認する。(2/2)

備考



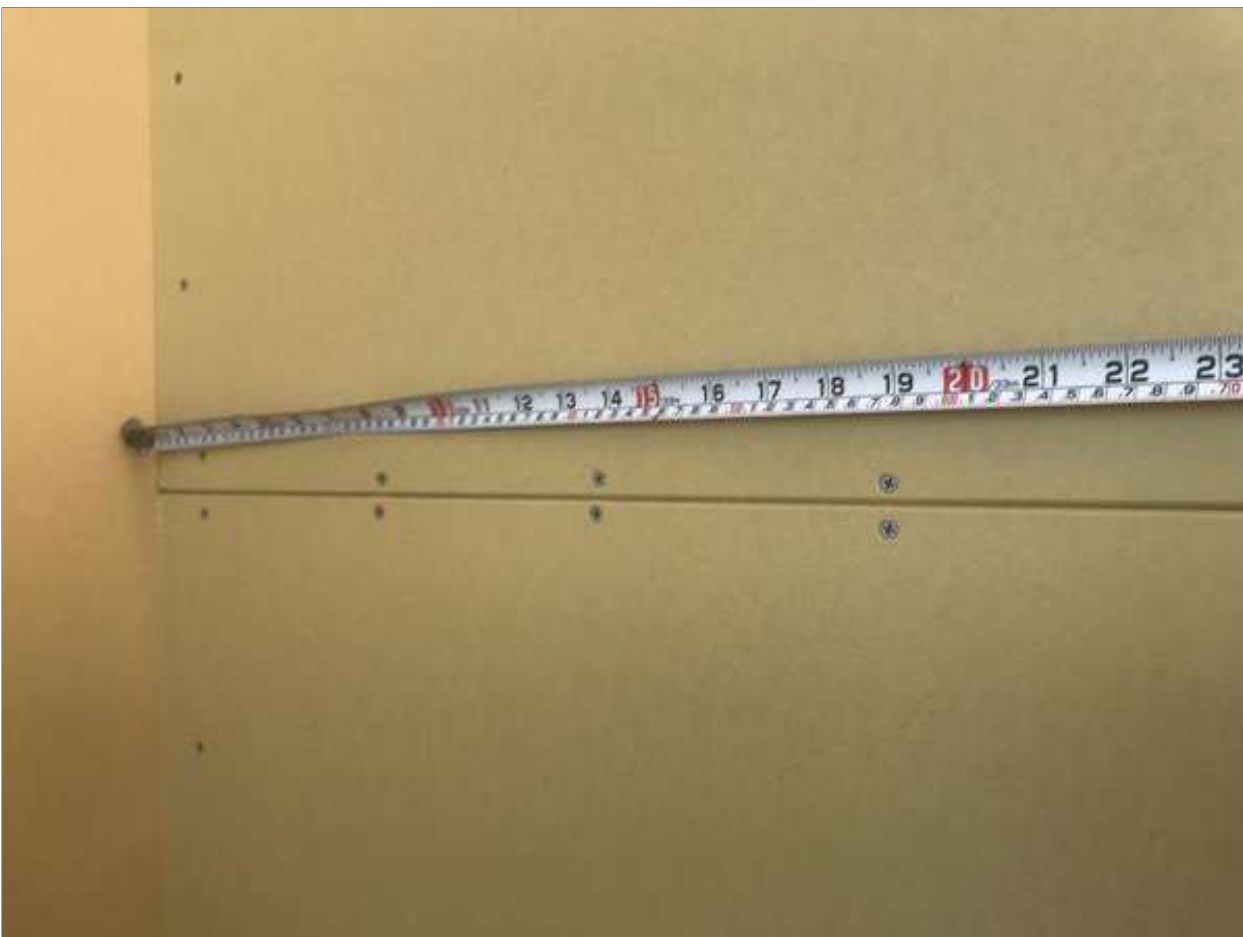
1-14 壁天井 せっこうボード張りはGNF40又はSF45を使用する

備考



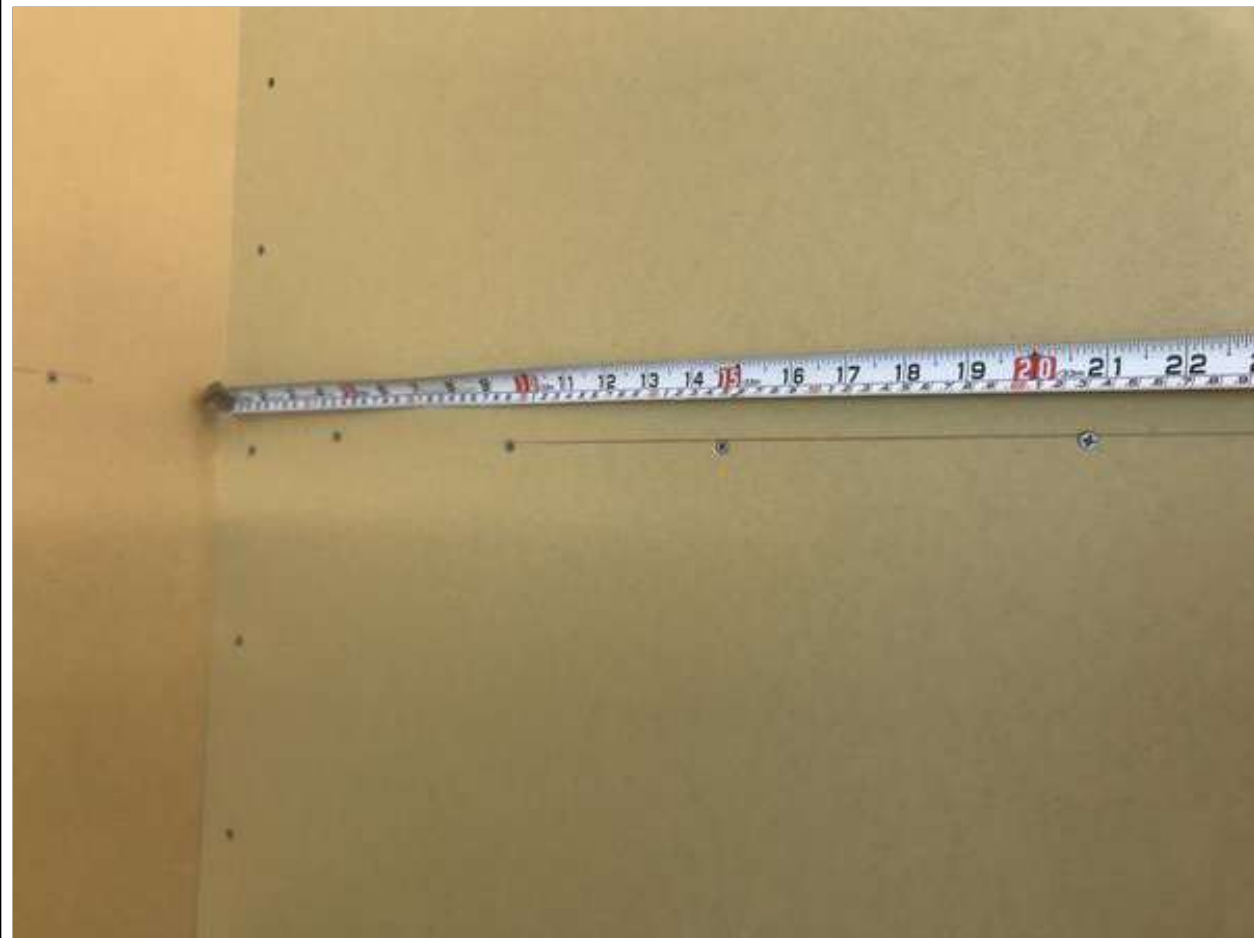
1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(1/2)

備考



1-15 くぎ打ち間隔は外周100mm以内、中間部200mm以内の間隔で留め付ける。(2枚張りの場合) くぎ打ち間隔は外周部及び中間部とも200mm以内とする。(2/2)

備考



1-16 壁張りに用いるせっこうボードは、床面からの湿気により強度が低下しないように床面から13mm程度離して打ち付ける

備考



1-17 壁ボードの空きは2mmを許容とする

備考



基準値
2
実測値

1-18 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場合はCN65とすることが望ましい。(1/2)

備考



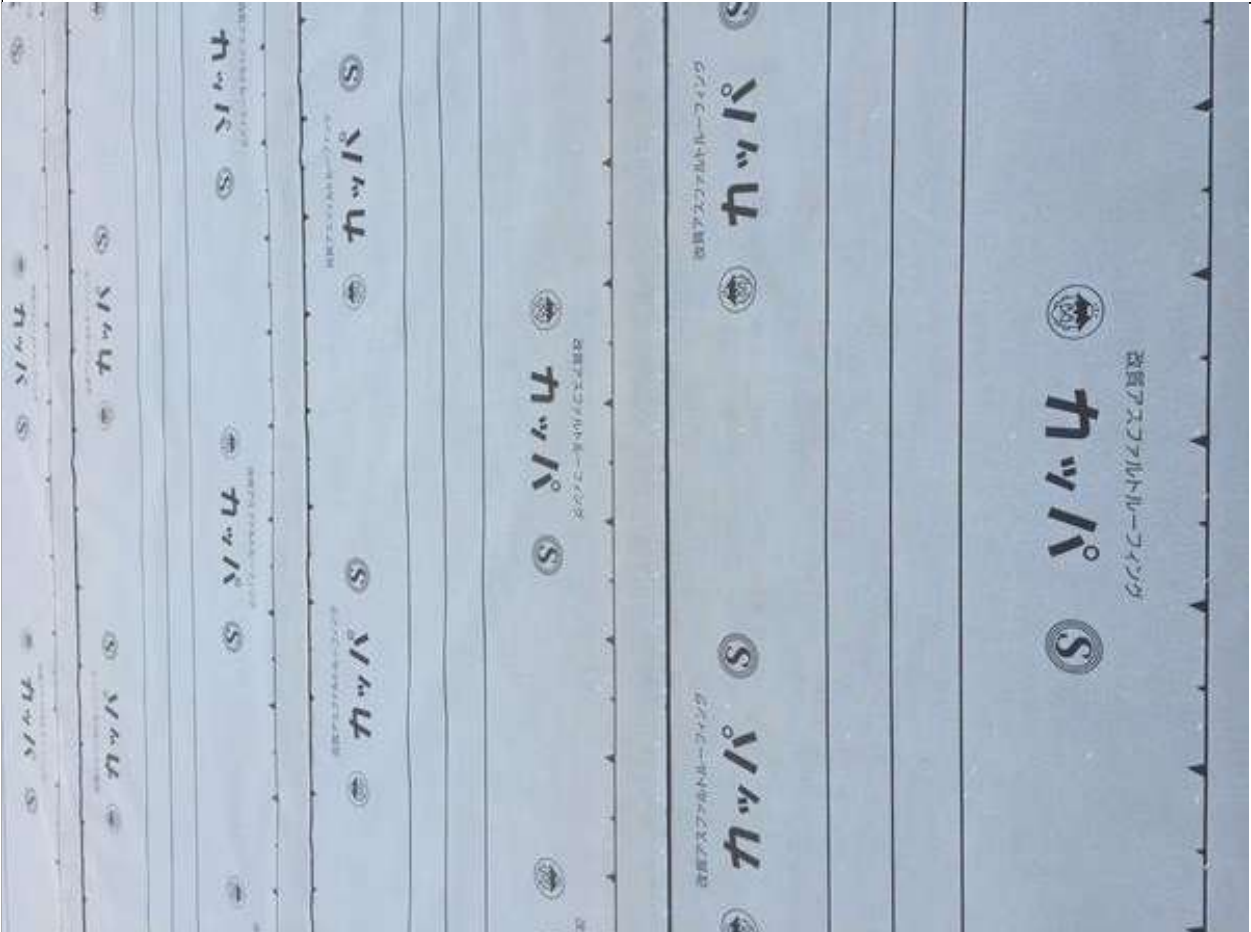
1-18 屋根下張材のくぎ打ちは、CN50（緑）を周辺部150mm間隔以内、
中間部300mm間隔以内に平打ちする。 ※屋根下張材の厚さが15mm以上の場
合はCN65とすることが望ましい。(2/2)

備考

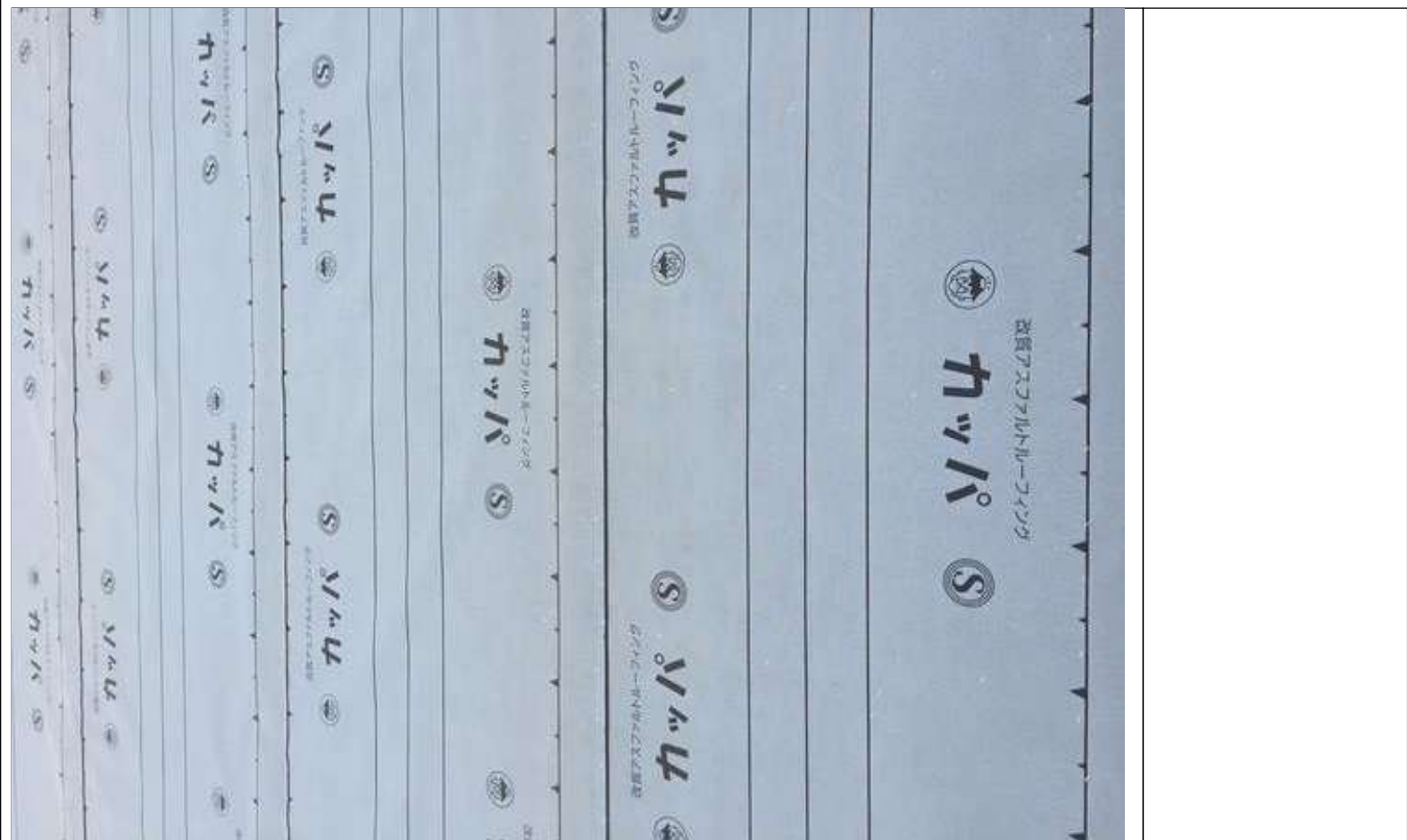


1-21 GNF40使用 外周部100mm中間部200mm以下か 端部は10mm
内側に

備考



| | |
|---|-----------|
| <p>1-22 建て方当時にアスファルトルーフィングまで施工する。上下（流れ方向）は100mm以上、左右（長手方向）は200mm以上重ね合わせる。（未施工の場合、ブルーシート養生する）下屋と外壁の取り合い部に関しては、建て方時にアスファルトルーフィングを先行して差し込んでおく。（ルーフィング施工前に外し釘を確認）</p> | <p>備考</p> |
|---|-----------|



| | |
|-----------------------------------|-----------|
| <p>1-24 小屋裏換気・軒裏換気は有効な位置に設ける。</p> | <p>備考</p> |
|-----------------------------------|-----------|

